

Arcserve Cloud Cyber Resilient Storage

/Arcserve Cloud Storage

スタートアップ ガイド

本資料は、Arcserve Cloud Cyber Resilient Storage および Arcserve Cloud Storage のサービス概要をご理解した方向けに、利用のための手順を記載したガイドです。
サービスの概要については、以下をご確認ください。

- Arcserve CRS シリーズのご紹介

<https://www.arcserve.com/jp/crs-presentation.pdf>

改訂履歴

2025 年 9 月 Rev1.0 リリース

目次

1 はじめに	3
1-1. Arcserve Cloud Cyber Resilient Storage (クラウド CRS) とは	3
1-2. 構成	4
1-3. 前提条件	5
1-4. 構築の流れ	6
2 アクセス キーの入手	7
2-1. アクセスキー管理の概要	7
2-2. Arcserve Cloud Storage ポータルへのアクセス	8
2-3. アクセス キーのリセット	9
2-4. <参考> アクセス キーの追加	13
2-5. <参考> 多要素認証の設定	14
3 データストアの追加と利用	18
3-1. クラウド アカウントの追加	18
3-2. データストアの追加	21
3-3. バックアップ/レプリケート等での利用	31
4 ランサムウェア攻撃からの復旧	32
4-1. 復旧の流れ	32
4-2. イミュータブルスナップショットのインポート	32
4-3. リストアの実行	36
4-4. バックアップ時と異なる RPS へのデータストアインポート	38
5 参考情報	44

1 はじめに

1-1. Arcserve Cloud Cyber Resilient Storage (クラウド CRS) とは

身代金要求型のマルウェアであるランサムウェアは、依然として企業/組織にとっての重大な脅威です。

攻撃の手口は巧妙化し、業務上の重要な本番データのみならず、それを復旧するためのバックアップデータも暗号化される事例が大半を占めています。攻撃から迅速に復旧するためには、バックアップデータが破壊・改ざんされても復旧可能な体制を整えることが不可欠です。

Arcserve の提供するイミュータブル（不变）ストレージソリューション、Arcserve Cyber Resilient Storage（以下、CRS と省略）シリーズは、Arcserve Unified Data Protection（以下、Arcserve UDP と省略）のバックアップデータを格納するクラウド / オンプレミスのストレージとしてご利用いただけます。不变なスナップショットにより、不正に破壊・改ざんされたバックアップデータを正常な時点の状態に復旧し、速やかに本番データの復旧に臨んでいただけるための仕組みを提供します。

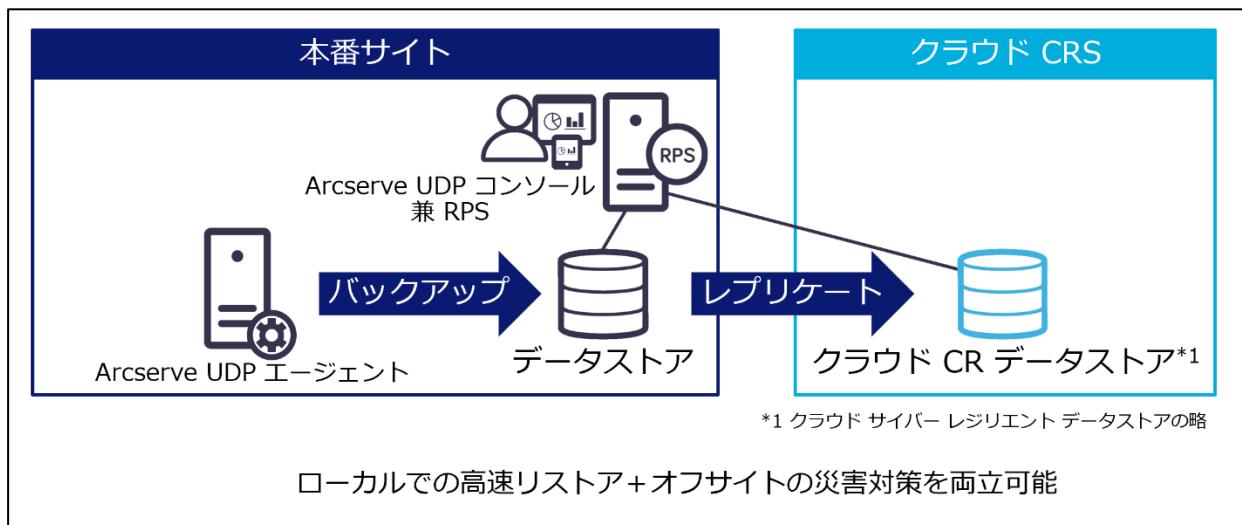
本書では、主にクラウドベースのイミュータブルストレージを提供する “Arcserve Cloud Cyber Resilient Storage（以下、クラウド CRS と省略）” を活用したデータ保護環境の構築と、復旧までの手順を解説します。

なお、イミュータブル機能のないクラウドストレージである、 “Arcserve Cloud Storage（以下、ACS と省略）” の環境構築方法についても、本書で解説します。

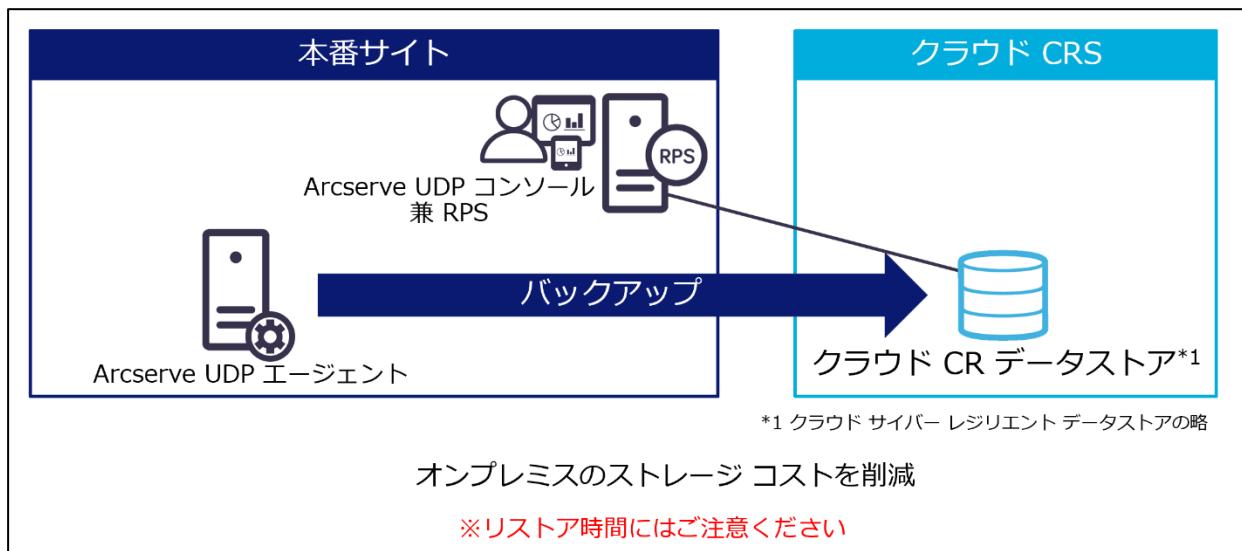
1-2. 構成

クラウド CRS / ACS は、Arcserve UDP の復旧ポイント サーバ（以下、RPS と省略）のデータストアとして利用します。バックアップデータの2次複製先（レプリケート先）や、1次バックアップ先としてのご利用など、通常の RPS データストアと同様に利用いただけます。

構成例 1（推奨）：2次複製先（レプリケート先）としての利用



構成例 2：1次バックアップ先としての利用、



1-3. 前提条件

- Arcserve UDP コンソール / RPS がインターネットに接続できること
- Arcserve UDP コンソール / RPS から TCP/433 (outbound) で通信できるようファイアウォールを例外登録しておくこと

※ Arcserve UDP 10.2 では、Web Proxy 経由でクラウド CRS に接続できません。

◇その他の注意/制限事項は以下をご確認ください。

- Arcserve Cloud Cyber Resilient Storage / Arcserve Cloud Storage 注意/制限事項
<https://support.arcserve.com/s/article/2025090304?language=ja>

◇各サーバの動作要件や必要なリソースについては、以下をご参照ください。

- Arcserve UDP 10.x 動作要件

<https://support.arcserve.com/s/article/Arcserve-UDP-10-X-Software-Compatibility-Matrix?language=ja>

- Arcserve UDP 10.x サーバ構成とスペック見積もり方法

<https://www.arcserve.com/sites/default/files/2024-10/udp-10x-serverspec-guide.pdf>

また、クラウド CRS のデータストアを追加する RPS には、その分のディスクやメモリが必要になります。詳しい考え方は、以下の資料中の参考情報をご確認ください。

- Arcserve CRS シリーズ紹介資料 – 参考情報

<https://www.arcserve.com/sites/default/files/2025-08/crs-presentation.pdf>

1-4. 構築の流れ

以下はクラウド CRS を利用したバックアップ環境構築の流れです。

1. Arcserve UDP コンソール / RPS の構築
2. サービスのご購入 / 納品メール受信
3. アクセス キーの入手
4. クラウド アカウントの作成
5. クラウド サイバーレジリエンス データ ストアの作成
6. バックアップ/レプリケート等での利用

本書では、「3. アクセス キーの入手」以降の手順について解説します。

「1. Arcserve UDP コンソール / RPS の構築」については、以下のガイドの「1. インストール」を参考に、Arcserve UDP 10.2 以降の Arcserve UDP コンソール / RPS をインストールしたサーバを構築し、Arcserve UDP のライセンス登録までを行ってください。

- ・ Arcserve Unified Data Protection 10.x 環境構築ガイド

コンソール+復旧ポイント サーバ (フル コンポーネント) インストール編

<https://www.arcserve.com/sites/default/files/2024-10/udp-10x-console-install-guide.pdf>

※無償トライアルをご利用いただく場合、2. でサービスを購入する代わりに以下からトライアルにお申し込みください。その後の設定は購入時と同様です。

Arcserve UDP についてもトライアルを行えます。

- ・ クラウド CRS トライアル

<https://www.arcserve.com/jp/free-trials/arcserve-cloud-cyber-resilient-storage>

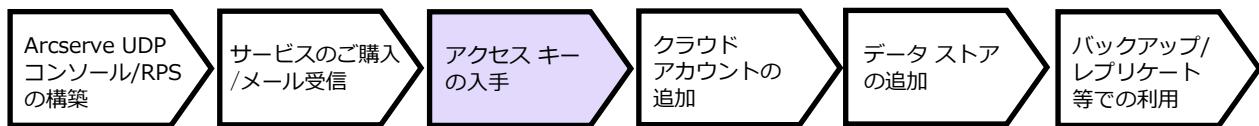
- ・ ACS トライアル

<https://www.arcserve.com/jp/free-trials/arcserve-cloud-storage>

- ・ Arcserve UDP トライアル

<https://www.arcserve.com/jp/free-backup-software-trial>

2 アクセス キーの入手



2-1. アクセスキー管理の概要

クラウド CRS / ACS を利用するためには、クラウドへのアクセス認証のために使用する「アクセスキー」 / 「シークレットアクセスキー」のペアが必要です。

アクセスキーの管理をするためには、以下の「Arcserve Cloud Storage ポータル」というクラウドベースの管理画面を利用します。

Arcserve Cloud Storage ポータルでは、アクセスキーのリセットや追加、アクセスキーの削除が可能です。

Name	Key	Created On	
Root Access Key	[REDACTED]	16-Jun-2025	Primary
Root Access Key	[REDACTED]	01-Aug-2025	

※2025年9月現在、英語インターフェースのみとなります。

注意：

Arcserve Cloud Storage ポータルではバケットの操作は行わないでください。

バケットの作成やプロパティ設定（保持ポリシーの設定）は後述する Arcserve UDP コンソールでのデータストア作成時にに行ってください。

2-2. Arcserve Cloud Storage ポータルへのアクセス

クラウド CRS / ACS を購入すると、申し込み時に記入したメール アドレスに Arcserve License-Program (License-Program@arcserve.com) からライセンス プログラム証書のメールが届きます。

※メールの件名は以下となります。

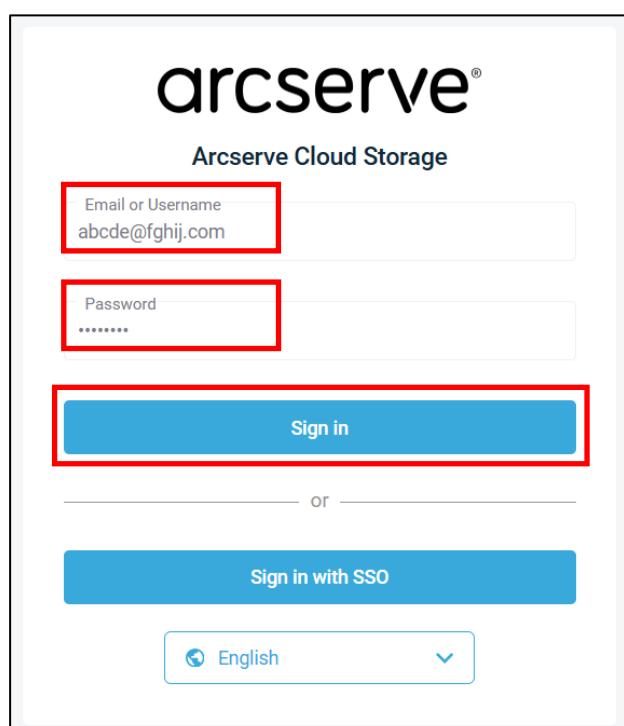
Arcserve - License Order Confirmation #xxxxxxxx (xxxxxxxx はオーダーID)

ライセンス プログラム証書のメールが迷惑メールとして扱われないように、事前に受信可能となる設定をしておいてください。

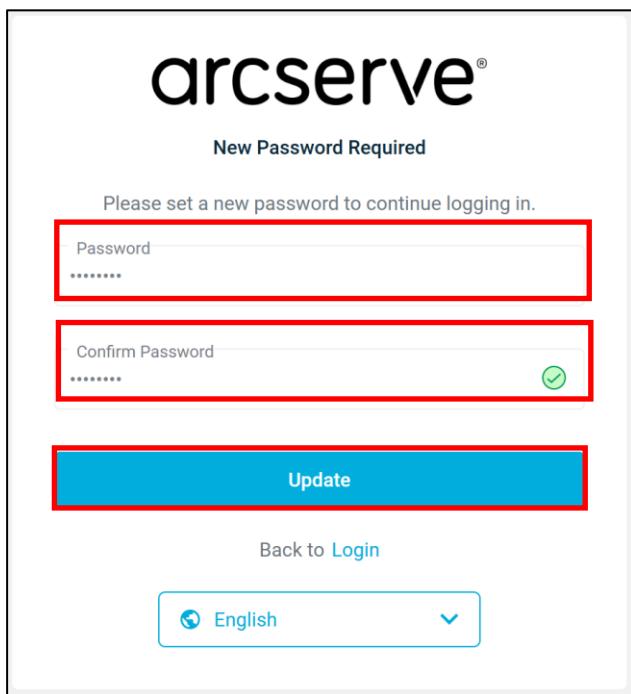
インターネットに接続できる端末から Web ブラウザ (JavaScript 有効のもの) を開き、以下の URL を入力して Arcserve Cloud Storage ポータルにアクセスしてください。

<https://cloudstorage.arcserve.com>

ログオン画面にて、[Email or Username] 、および [Password] に、ライセンス プログラム証書に記載されたメール アドレス、およびパスワードを入力して、[Sign in] をクリックします。



初回ログオン時には、画面の指示に従って新しいパスワードを設定します。新しいパスワード、および確認用に同じパスワードを入力し、[Update] をクリックします。



New Password Required

Please set a new password to continue logging in.

Password

Confirm Password

Update

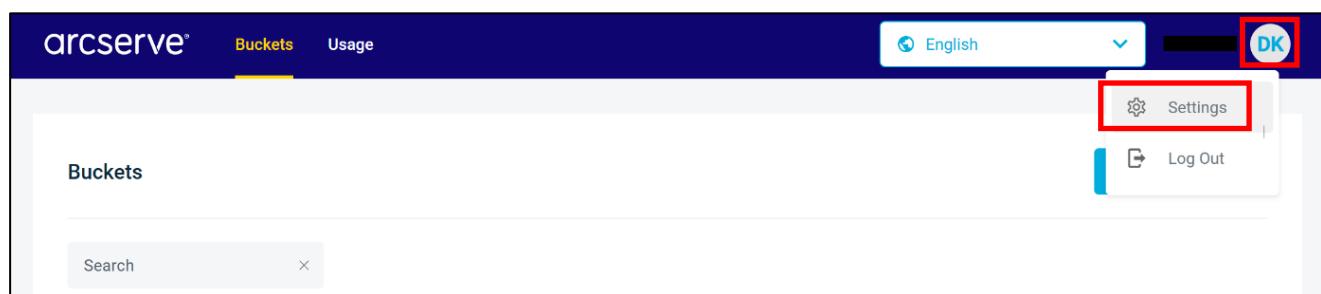
Back to [Login](#)

English

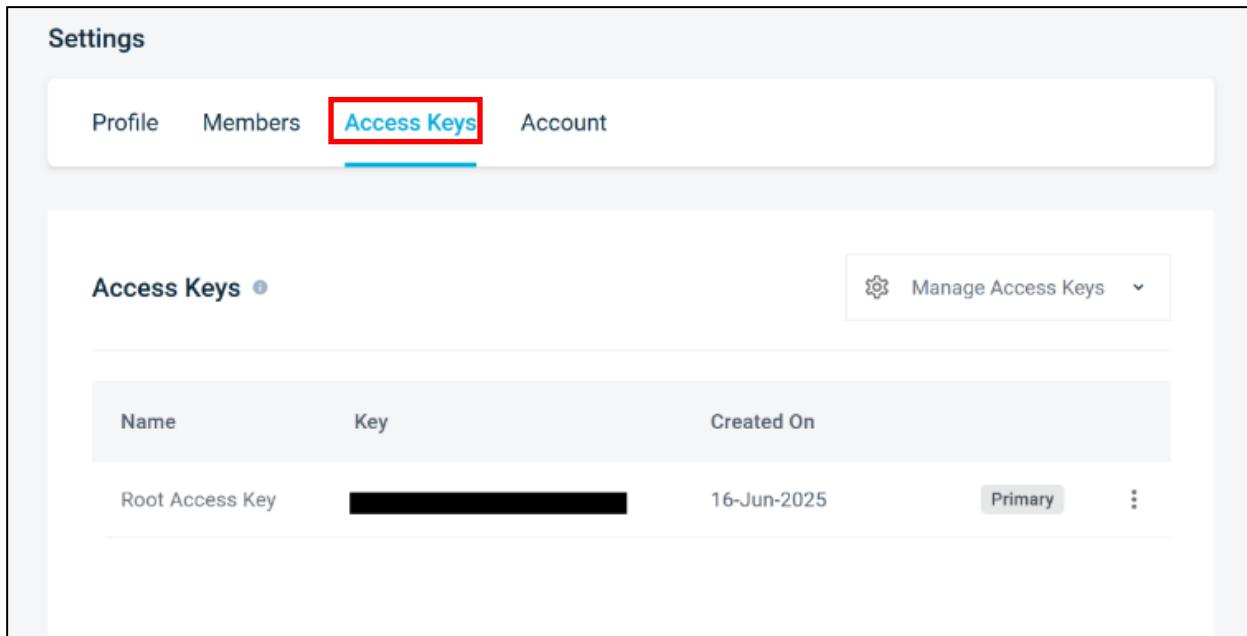
2-3. アクセス キーのリセット

アクセス キーの管理をするためには、以下の操作を行ってください。

1. 画面右上のユーザを示すアイコンをクリックし、[Settings] をクリックします。



2. [Access Keys] タブをクリックします。



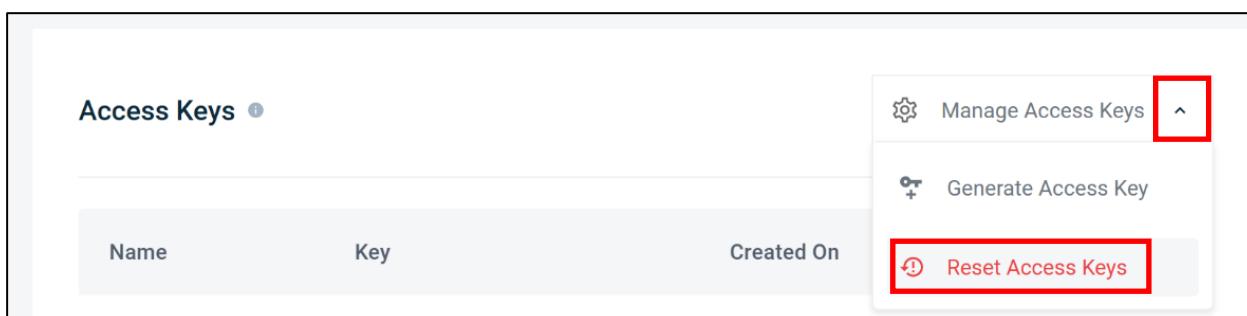
Name	Key	Created On	Status
Root Access Key	[REDACTED]	16-Jun-2025	Primary

デフォルトでは1つのアクセスキーが発行されていますが、このアクセスキーとペアになるシークレットアクセスキーを確認する方法がないため、このアクセスキーは利用できません。

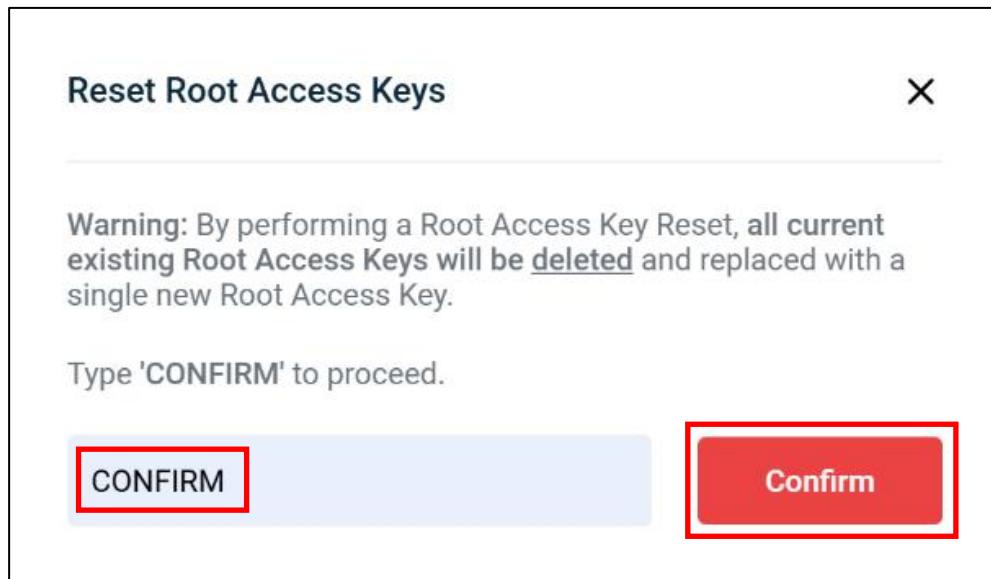
そのため、アクセスキーのリセット、もしくは追加が必要となります。

本書では、アクセスキーをリセットします。

3. [Manage Access Keys] をプルダウンし、[Reset Access Keys] をクリックします。

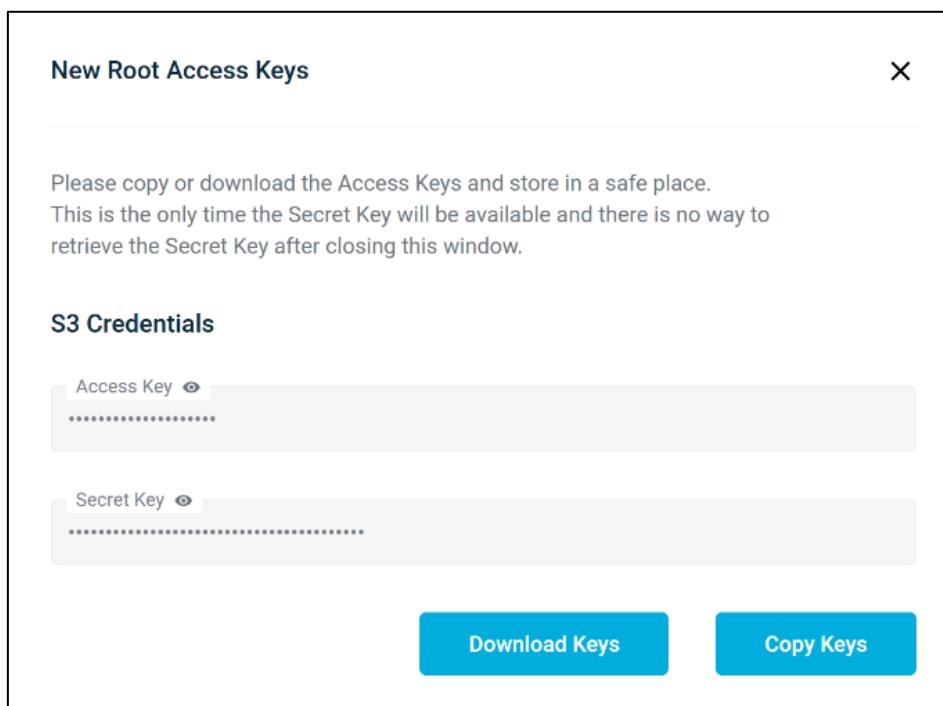


4. 既存の全てのルートアクセスキー（管理者用のアクセスキー）が削除され、新しいルートアクセスキーが1つ発行される旨の警告が表示されます。警告の内容を確認した上で、大文字で“CONFIRM”と入力し、[Confirm] ボタンをクリックします。



アクセスキーはリセットされ、新しいアクセスキーが作成されます。

※既存のアクセスキーは使用できなくなります。



新しいアクセスキーおよびそれとペアになるシークレットアクセスキーは、[Download Keys] からファイルとしてダウンロードしたり、[Copy Keys] からクリップボードにコピーして、メモ帳などにテキスト形式で貼り付けたりすることができます。これらのキーは、後の手順で Arcserve UDP 上で「クラウド アカウント」の設定をする際、クラウドストレージにアクセスするための認証情報として利用します。

注意:

シークレット アクセス キーはこのタイミングでのみ、取得が可能です。

後から確認する方法はなく、紛失すると、アクセス キーのリセットや再作成が必要となります。

紛失や外部漏洩しないよう、大切に保管してください。

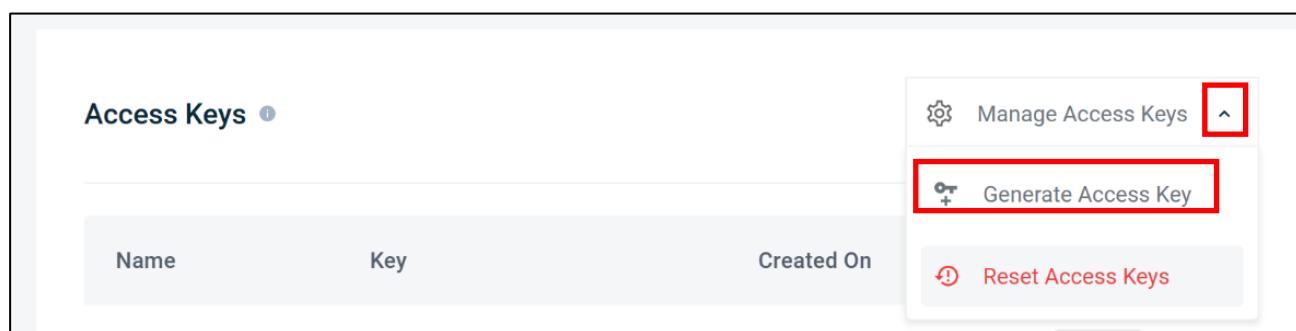
2-4. <参考> アクセス キーの追加

アクセス キーは追加が可能で、ご契約いただいたアカウントにつき最大 2 つまで利用できます。

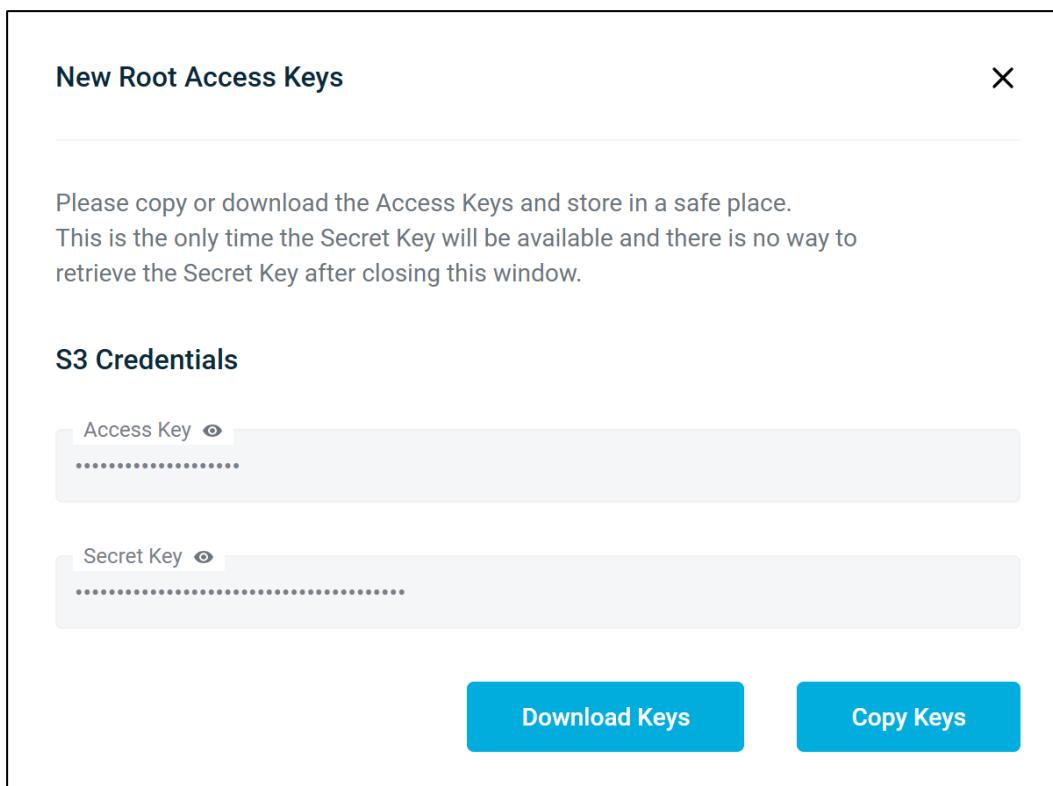
追加したアクセス キーは、同一組織内において、1 つめのキーのご利用環境とは異なるシステムでもご利用いただけます。

以下の手順でアクセス キーを追加できます。

1. [Manage Access Keys] をプルダウンし、[Generate Access Keys] をクリックします。



新しいアクセス キーが発行されます。



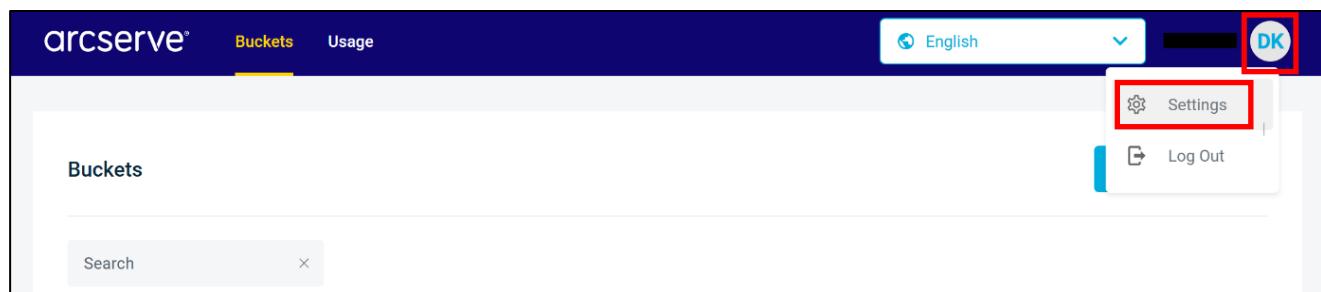
2-5. <参考> 多要素認証の設定

Arcserve Cloud Storage ポータルのセキュリティを向上させるために、サインイン時の多要素認証 (MFA: Multi-Factor Authentication) を有効にすることができます。

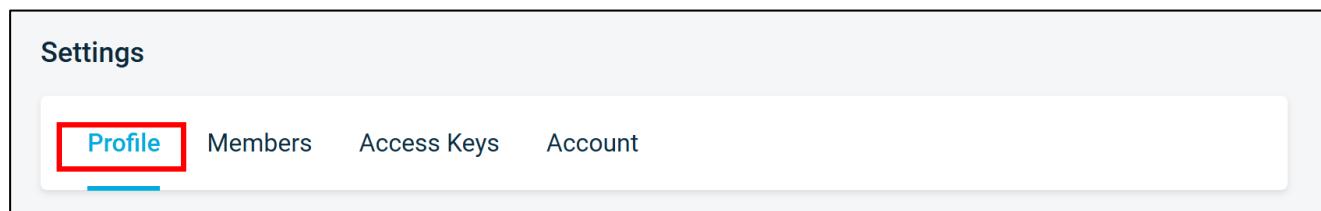
これにより、サインイン時には電子メール/ユーザ名、パスワードに加えて、Google Authenticator 等の認証システム アプリケーションから取得したコード (ワンタイム パスワード) の入力も求められるようになり、攻撃者による Arcserve Cloud Storage ポータルへの不正アクセス リスクを低減できます。

以下は、多要素認証の設定手順です。

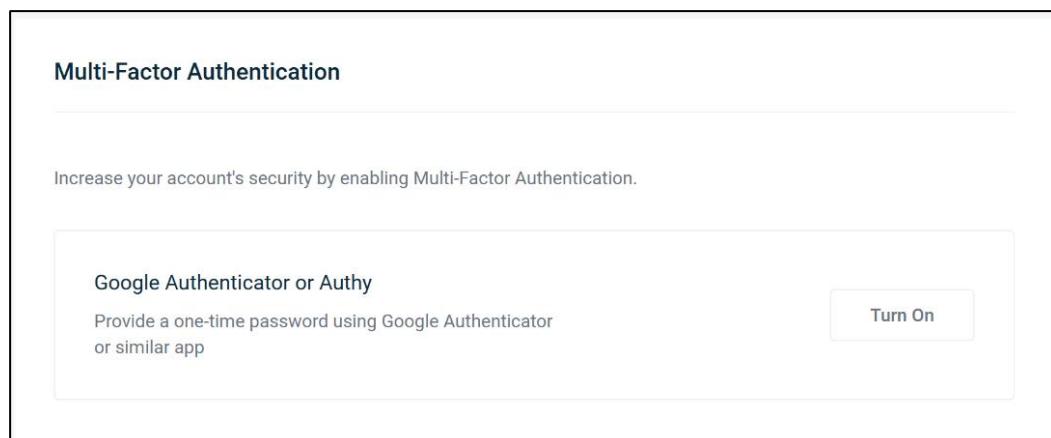
1. Arcserve Cloud Storage ポータルにサインインします。
2. 画面右上のユーザを示すアイコンをクリックし、[Settings] をクリックします。



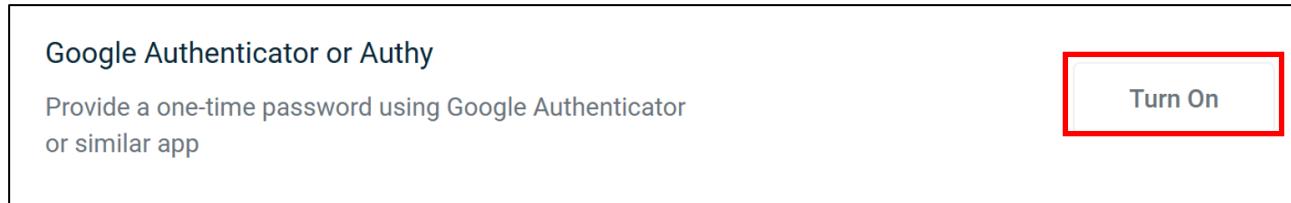
3. [Profile] タブを選択します (デフォルト)



4. 画面下方にスクロールし、Multi-Factor Authentication のセクションを表示します。

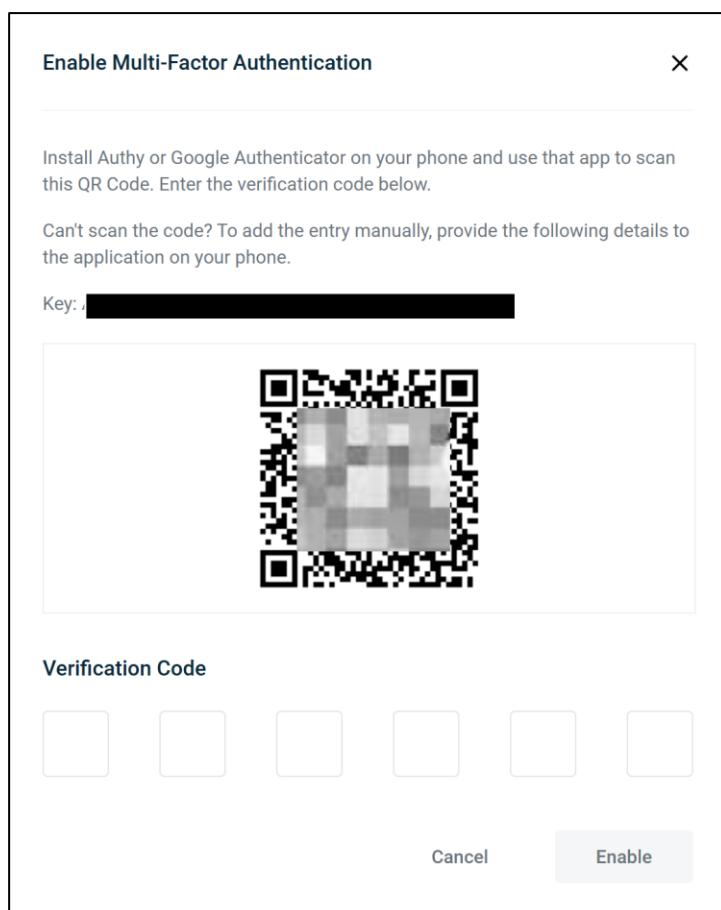


5. [Turn On] をクリックします。



6. 認証アプリケーションに登録するためのキーと QR コードが表示されます。

スマートフォン等のモバイル端末にインストールした Google Authenticator 等の認証アプリケーションで QR コードをスキャンしてアカウントを登録します。

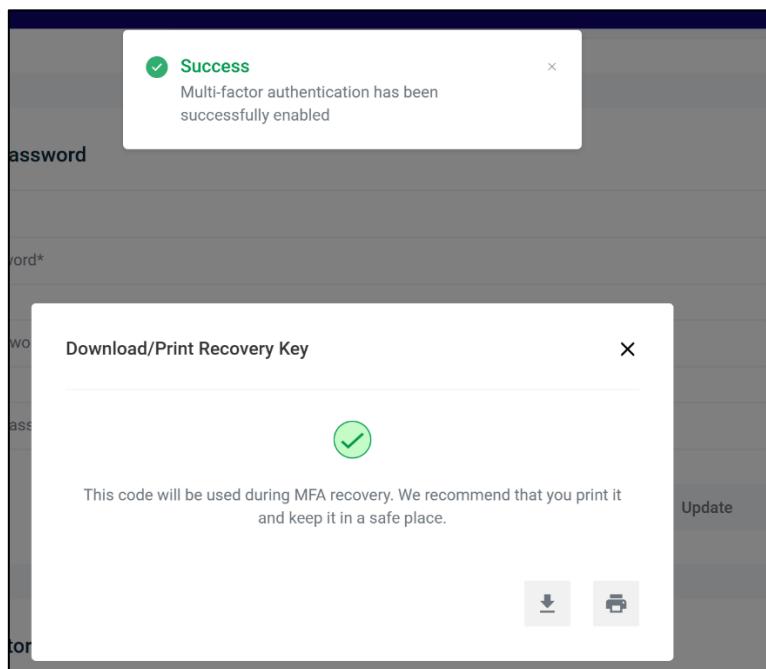


7. [Verification Code] に、認証アプリケーションに表示されるコードを入力し、[Enable] をクリックします。



これで多要素認証の設定は完了です。

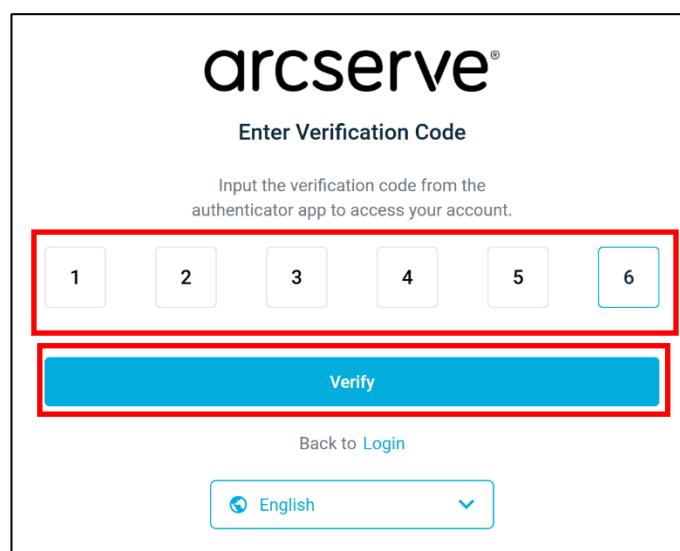
リカバリ用のキーをダウンロードしたり印刷したりできるので、大切に保管してください。



モバイル端末には「Cloud Storage: (ユーザ名)」のアカウントが登録されます。

以後、Arcserve Cloud Storage ポータルへのサインイン時には [Email or Username]、および [Password] の入力後に、「Enter Verification Code」の画面が表示されるようになります。

モバイル端末の認証アプリケーションに表示されるコードを入力し、[Verify] をクリックすることでサインインが完了します。

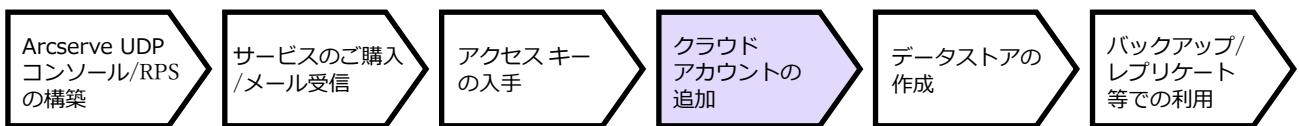


注意：

- ・ Google Authenticator などモバイル端末上の、認証システム アプリケーション上のアカウントは、認証システム アプリケーションの解説を良くお読みになった上で必ずバックアップを行ってください。アカウントを設定したモバイル端末の故障/紛失、機種変更、アカウントの誤消去などにより、認証コードの確認ができなくなる場合があります。
- ・ モバイル端末は時刻を正確に合わせてください。ワンタイム パスワードは Arcserve Cloud Storage ポータルとモバイル端末、それぞれの環境で時刻を元に生成しています。両者の時刻が一致していないと、生成されるパスワードが食い違うことでの認証が失敗する場合があります。

3 データストアの追加と利用

3-1. クラウド アカウントの追加



ここから先の設定は、Arcserve UDP コンソールで行います。

この時点では、[リソース] タブで復旧ポイント サーバを右クリックしても、まだ ACS のデータストア (Arcserve クラウド データストア) やクラウド CRS のデータストア (クラウド サイバー レジリエンス データストア) は追加できません。

ダッシュボード リソース ジョブ レポート ログ 設定

デスティネーション: 復旧ポイントサーバ

アクション | **復旧ポイントサーバの追加**

名前	ステータス	プラン数	イミュータブル	スナップショット
backupsensor2	更新...			

データストアの追加
データストアのインポート

Arcserve サイバー レジリエンス データストアの追加 **試す**
Arcserve クラウド データストアの追加 **試す**
Arcserve クラウド サイバー レジリエンス データストアの追加 **試す**

AWS/Azure/Google Cloud データストアの追加
AWS/Azure/Google Cloud データストアのインポート

RPS ジャンプスタート
復旧ポイントサーバのインストール/アップグレード
アドホック レプリケーション

これらのデータストアを追加するには、以降の手順に従って、"クラウド アカウント"を作成します。

- [クラウド アカウント] をクリックします。



The screenshot shows the Arcserve interface with the 'Resources' tab selected. In the left sidebar, under 'Cloud Account', the 'Cloud Account' option is highlighted with a red box. The right panel shows a list of actions: '表示名' (Display Name) and 'Cloud Service' (Cloud Service). The 'Cloud Service' dropdown is currently set to 'Arcserve Cloud Storage'.

- [クラウド アカウントの追加] をクリックします。



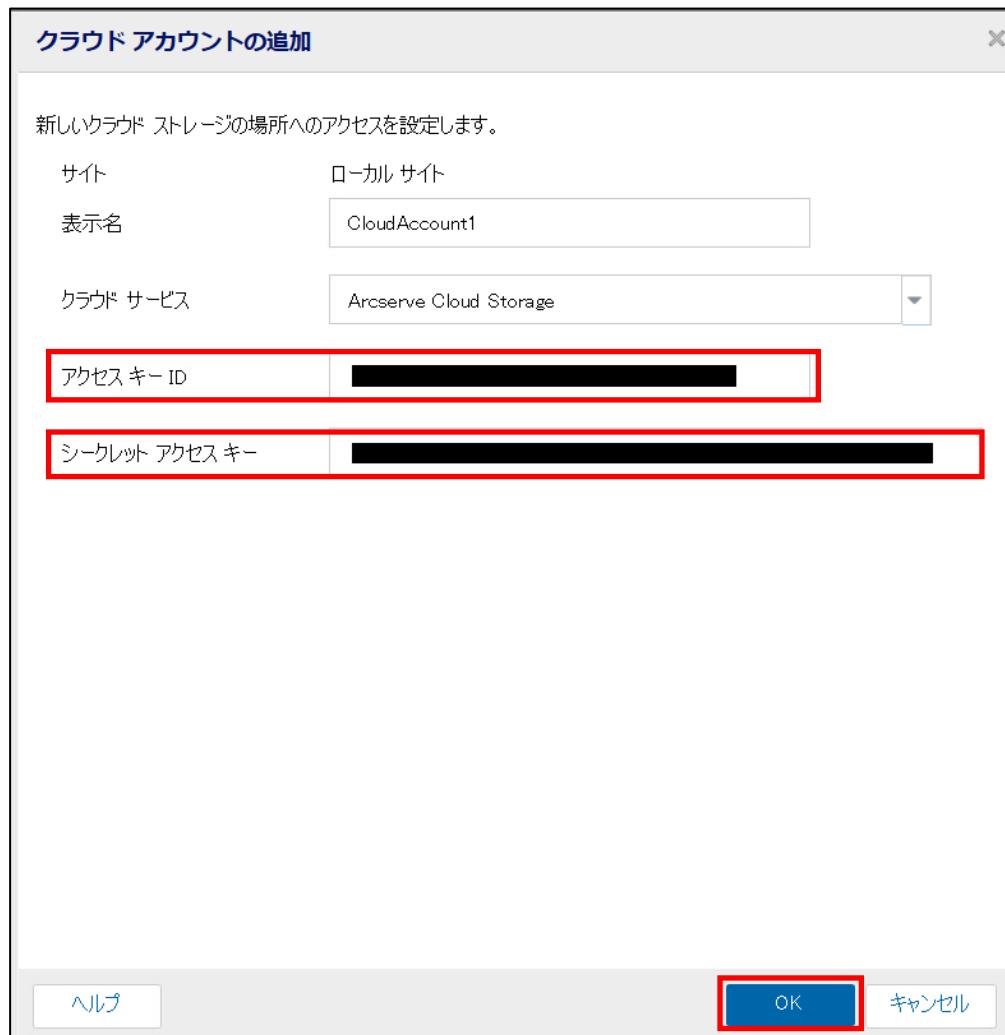
The screenshot shows the Arcserve interface with the 'Resources' tab selected. In the left sidebar, under 'Cloud Account', the 'Cloud Account' option is highlighted with a red box. The right panel shows a list of actions: '表示名' (Display Name) and 'Cloud Service' (Cloud Service). The 'Cloud Service' dropdown is currently set to 'Arcserve Cloud Storage'.

[表示名] に、クラウド アカウントを識別するための任意のアカウント名を入力します。また、[クラウド サービス] をプルダウンし、「Arcserve Cloud Storage」を選択します。



The screenshot shows the 'Cloud Account' addition dialog box. It has a title bar 'Cloud Account' and a message '新しいクラウド ストレージの場所へのアクセスを設定します。'. The 'Display Name' field is filled with 'CloudAccount' and has a red box around it. The 'Cloud Service' dropdown is open, showing 'Arcserve Cloud Storage' as the selected option, which is also highlighted with a red box. Other options in the dropdown include 'Amazon EC2', 'Amazon EC2-China', 'Amazon S3', and 'Amazon S3 - 中国'. A scroll bar is visible on the right side of the dropdown list.

3. [アクセス キー ID]、[シークレット アクセスキー]に、Arcserve Cloud Storage ポータルで取得済みのアクセスキー、シークレット アクセスキーを入力し、[OK] をクリックします。



クラウド アカウントが作成され、データ ストアの追加が可能になります。

ダッシュボード リソース ジョブ レポート ログ 設定

デスティネーション: クラウド アカウント

アクション | クラウド アカウントの追加

表示名 CloudAccount1

ノード

- すべてのノード
- プランのないノード
- vCenter/ESX グループ

プラン

- すべてのプラン

デスティネーション

- 復旧ポイント サーバ
- Arcserve Backup サーバ
- 共有フォルダ

クラウド アカウント

3-2. データストアの追加



ACS のデータストアやクラウド CRS のデータストアは重複排除が有効なデータストアとして作成されます。その際、以下の 3 つの RPS 内のフォルダを指定します。

- ・**データストア フォルダ**

バックアップデータに関する情報、カタログの格納先

- ・**インデックス デスティネーション**

データに対するポインタ情報（インデックス）の格納先

- ・**ハッシュ デスティネーション**

重複を検知するためのハッシュ ファイルの格納先

注意：

パフォーマンスの観点から、これらのフォルダはローカルディスク上に設定してください。

また、データデスティネーションとしてクラウド上のバケット（データ格納領域）を指定します。

なお、復旧時に必須となるデータストア フォルダやインデックス デスティネーションのフォルダは 15 分間隔でクラウドに同期されます。これにより、RPS が全損した場合でも、クラウド内のデータを元に復旧が可能となります。その際の復旧手順は [バックアップ時と異なる RPS へのデータストアインポート](#) をご覧ください。

クラウド CRS のデータストアでは、イミュータブルスナップショットの取得のタイミングや保存期間も指定します。

次項からの手順に従って、データストアを作成します。

- [リソース] - [復旧ポイント サーバ] にて 追加先の RPS を右クリックし、[Arcserve クラウド サイバー レジリエンス データ ストアの追加] をクリックします。



※以降の手順では、クラウド CRS のデータストア作成手順を解説します。ACS のデータストアを作成する場合は、この画面で [Arcserve クラウド データストアの追加] をクリックします。その際はスナップショットに関連する設定項目は表示されません。

■ クラウド CRS のデータ ストア設定画面

Arcserve クラウド サイバーレジリエンス データストアの作成

一般ルールを参照するか、デュプリケーションのストレージ容量要件を次で推定できます。[要件プランニングのクリックリファレンス](#)

デュプリケーション、圧縮、暗号化を有効化または無効化する設定は、データストアの作成後は変更できません。

復旧ポイントサーバ	udp-svr
データストア名	<input type="text"/>
データストア フォルダ	<input type="text"/> <input type="button" value="参照"/>
同時アクティブ ジョブ	<input type="text" value="4"/>
クラウド サービス	Arcserve Cloud Storage <input type="button" value="▼"/>
クラウド アカウント	CloudAccount1 <input type="button" value="▼"/>
地域	<input type="text"/> <input type="button" value="▼"/>

保持ポリシー

フレキシブル保持 (ガバナンス モード)
特定の IAM 権限を持つユーザーは、保存期間中に保護されているオブジェクトバージョンを上書きまたは削除できます。

コンプライアンス保持 (コンプライアンス モード)
保持期間中、保護されたオブジェクトバージョンをユーザーが上書きまたは削除することはできません。

イミュータブル スナップショット スケジュールの頻度

毎日
 毎週
 每月

デュプリケーションの有効化

デュプリケーション ブロック サイズ

ハッシュ メモリの割り当て MB (最大: 32767 MB、最小: 1024 MB)

ハッシュ デスティネーションは SSD (Solid State Drive) 上にある

インデックス デスティネーション

ハッシュ デスティネーション

圧縮を有効にする
圧縮タイプ 標準 最大
 暗号化の有効化

ACS には無い、
クラウド CRS のみの設定項目

■ACS の設定画面

Arcserve クラウド データ ストアの作成

一般ルールを参照するか、デュプリケーションのストレージ容量要件を次で推定できます: [要件プランニングのクイック リファレンス。](#)

注意 デュプリケーション、圧縮、暗号化を有効化または無効化する設定は、データ ストアの作成後は変更できません。

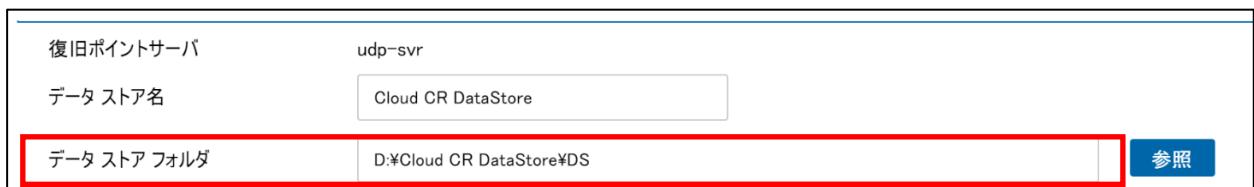
復旧ポイントサーバ	udp-svr
データ ストア名	<input type="text"/>
データ ストア フォルダ	<input type="text"/> 参照
同時アクティブ ジョブ	4
クラウド サービス	Arcserve Cloud Storage
クラウド アカウント	CloudAccount1
地域	<input type="text"/>
<input checked="" type="checkbox"/> デュプリケーションの有効化	
デュプリケーション ブロック サイズ	64 KB デュプリケーション テープ バックアップ リスト
ハッシュ メモリの割り当て	19975 MB (最大: 32767 MB、最小: 1024 MB)
<input type="checkbox"/> ハッシュ デスティネーションは SSD (Solid State Drive) 上にある	
インデックス デスティネーション	<input type="text"/> 参照
ハッシュ デスティネーション	<input type="text"/> 参照
<input checked="" type="checkbox"/> 圧縮を有効にする	
圧縮タイプ	<input checked="" type="radio"/> 標準 <input type="radio"/> 最大
<input type="checkbox"/> 暗号化の有効化	

保存 キャンセル ヘルプ

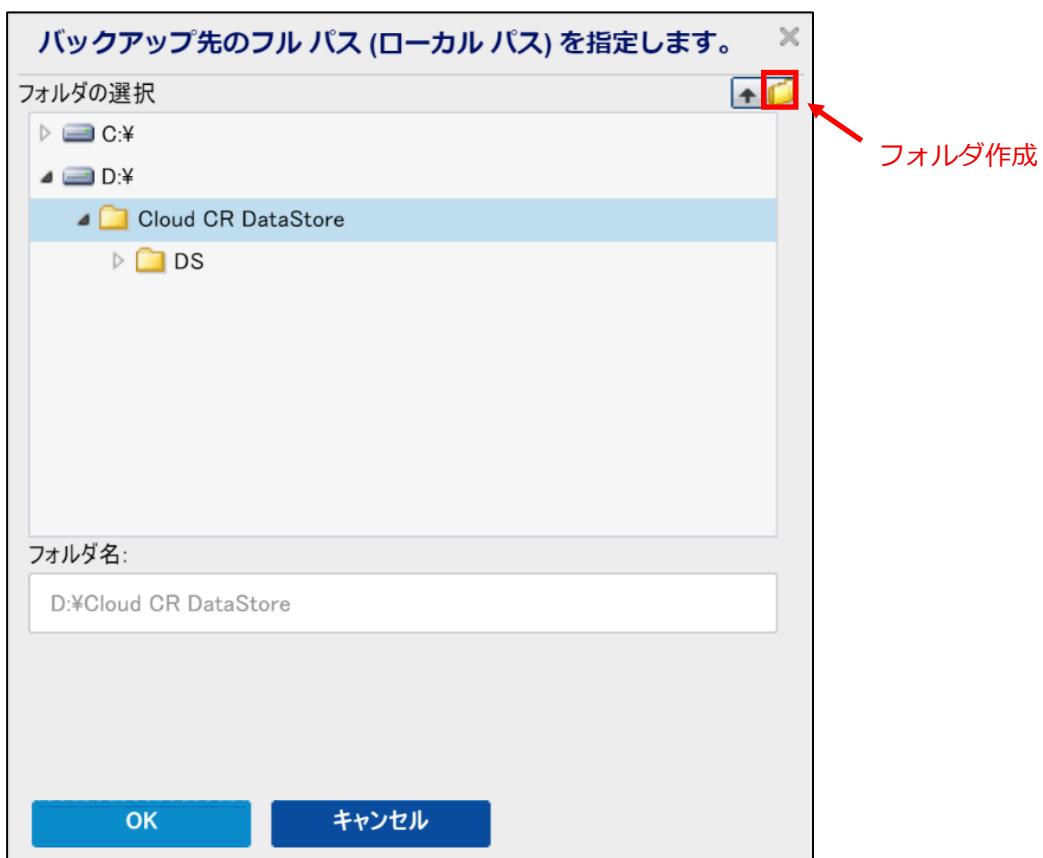
2. [データストア名] に任意のデータストア名を入力します。



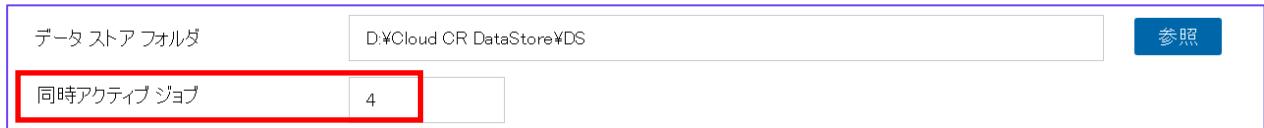
3. [データストア フォルダ] にパスを指定します。



この際、右の [参照] ボタンからローカルディスク上の場所を参照したり、選択している場所の配下にフォルダを作成したりすることも可能です。



4. [同時アクティブ ジョブ] により、データ ストアで許可される同時ジョブの最大数を指定できます。

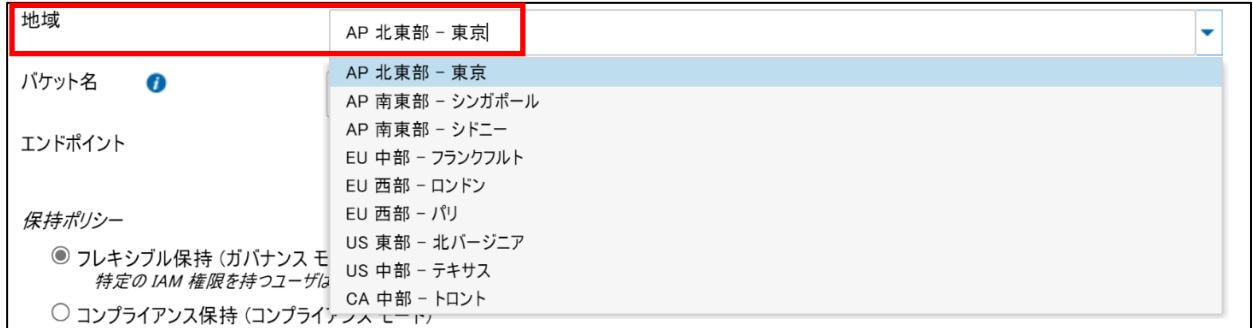


データストア フォルダ: D:\Cloud CR DataStore\DS

同時アクティブ ジョブ: 4

参照

5. [地域] として「AP 北東部 - 東京」を選択します。



地域	AP 北東部 - 東京
バケット名	AP 北東部 - 東京
エンドポイント	AP 南東部 - シンガポール AP 南東部 - シドニー EU 中部 - フランクフルト EU 西部 - ロンドン EU 西部 - パリ US 東部 - 北バージニア US 中部 - テキサス CA 中部 - トロント
保持ポリシー	<input checked="" type="radio"/> フレキシブル保持 (ガバナンス モード) <small>特定の IAM 権限を持つユーザーが</small> <input type="radio"/> コンプライアンス保持 (コンプライアンスモード)

注意 :

「AP 北東部 - 東京」以外は非サポートとなります。

6. [バケット名] に、任意のバケット名を指定します。



地域	AP 北東部 - 東京
バケット名	cloud-cr-datastore
エンドポイント	s3.ap-northeast-1.arcserve.com

注意 : バケット名の命名規則

バケット名は一意で、以下の要件を満たす必要があります。

- ドメイン名の規則に従う有効な DNS 準拠名である必要があります
- 小文字または数字にする必要があります
- 3 ~ 63 文字である必要があります
- 小文字、数字以外にピリオド (.) および/またはハイフン (-) が使用できます

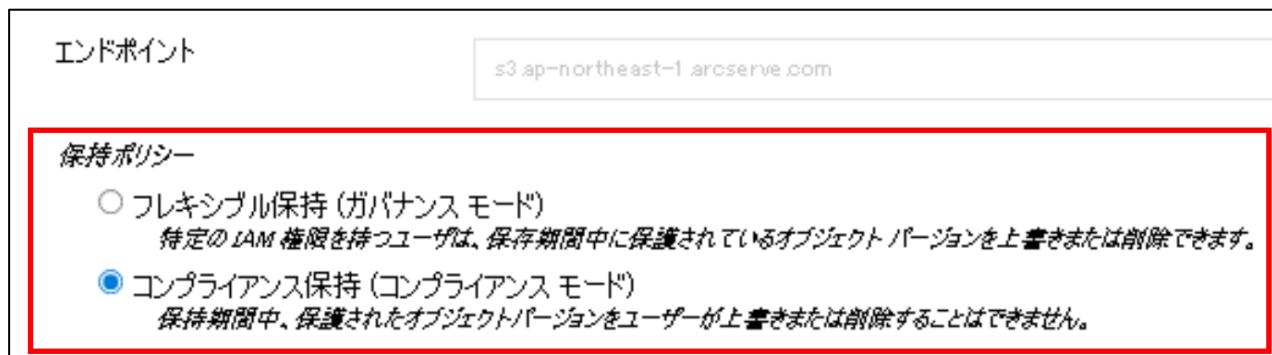
バケット名には、以下を使用できません。

- アンダースコア (_)
- 未尾にダッシュ
- 連続するピリオド (…)

- ・ ピリオドの前後にダッシュ
例： my-bucket-.name
- ・ IP アドレスのフォーマット
例： 123.45.678.90

7. (注：クラウド CRS のみの設定です)

[保持ポリシー] として、「フレキシブル保持（ガバナンス モード）」もしくは「コンプライアンス保持（コンプライアンス モード）」を選択します。



参考：保持ポリシーの違い

	ガバナンス モード	コンプライアンス モード
クラウド内のデータ削除/変更	可能	不可能
スナップショット保存期間の変更	可能	不可能

ランサムウェア対策としては、バックアップデータの削除/改ざんを防ぐ必要があるため、コンプライアンス モードをご使用いただくことを推奨します。

8. (注 : クラウド CRS のみの設定です)

イミュータブル スナップショット スケジュールの頻度を設定します。

デフォルトではイミュータブル スナップショットは取得されません。

[毎日]、[毎週]、[毎月] のチェック ボックスにチェックを入れて、[スナップショット時刻] や [保存期間] を設定できます。

イミュータブル スナップショット スケジュールの頻度

毎日

スナップショット時刻
00 : 00

保存期間 (日)
7

毎週

実行予定日
金曜日

スナップショット時刻
00 : 00

保存期間 (週)
5

毎月

開始日/週
日 1

スナップショット時刻
00 : 00

保存期間 (月)
12

 複数のスナップショット ジョブが同時に開始されるように設定されている場合は、優先度の最も高いジョブが最初に開始されます。他のジョブは次のトリガ 時刻に移されます。ジョブの優先度の高さは、月次、週次、日次の順序で決定されます。

スナップショットは設定した時刻に取得され、バックアップ データを保護します。

※詳細な設定については Arcserve UDP 10.x ソリューション ガイドの、

[「Arcserve クラウド サイバー レジリエンス データストアの変更」](#)をご参照ください。

9. クラウド CRS / ACS のデータストアでは、デデュプリケーション（重複排除）は必ず有効になります。

[ハッシュ メモリの割り当て] や [ハッシュ デスティネーションは SSD (Solid State Drive 上にある)] を適切に設定してください。

<input checked="" type="checkbox"/> デデュプリケーションの有効化	デデュプリケーション ブロック サイズ 64 KB	デデュプリケーション	テープ バックアップ	リスト
ハッシュ メモリの割り当て 19975	MB (最大: 32767 MB、最小: 1024 MB)			
<input type="checkbox"/> ハッシュ デスティネーションは SSD (Solid State Drive) 上にある				

10. [インデックス デスティネーション] および [ハッシュ デスティネーション] を指定します。

<input type="checkbox"/> ハッシュ デスティネーションは SSD (Solid State Drive) 上にある	参照	
インデックス デスティネーション D:\Cloud CR DataStore\INDEX	参照	
ハッシュ デスティネーション D:\Cloud CR DataStore\HASH	参照	

11. [圧縮を有効にする] はデフォルト有効となっていて、標準レベルでの圧縮が行われます。

<input checked="" type="checkbox"/> 圧縮を有効にする	<input checked="" type="radio"/> 標準	<input type="radio"/> 最大
圧縮タイプ		
<input type="checkbox"/> 暗号化の有効化		

[暗号化の有効化] はデフォルトでは無効です。

必要に応じて設定してください。

暗号化を有効にする場合、[暗号化パスワード] および [暗号化パスワードの確認] も入力します。

<input checked="" type="checkbox"/> 暗号化の有効化	
暗号化パスワード	
暗号化パスワードの確認	

12. 設定を確認し、[保存] をクリックします



RPS にデータストアが追加されました。



3-3. バックアップ/レプリケート等での利用



作成したクラウド CRS / ACS のデータ ストアは、サーバを保護する「プラン内」で、バックアップ タスクやレプリケート タスクの保存先（デスティネーション）としてご利用いただけます。

プラン/タスクの設定方法については、Arcserve UDP のマニュアル「Arcserve UDP 10.x ソリューション ガイド」のデータを保護するプランの設定をご参照ください。

4 ランサムウェア攻撃からの復旧

4-1. 復旧の流れ

ランサムウェア攻撃などにより、本番データに加えて、バックアップ データも破壊・改ざんされた場合、以下の流れで復旧を行います。

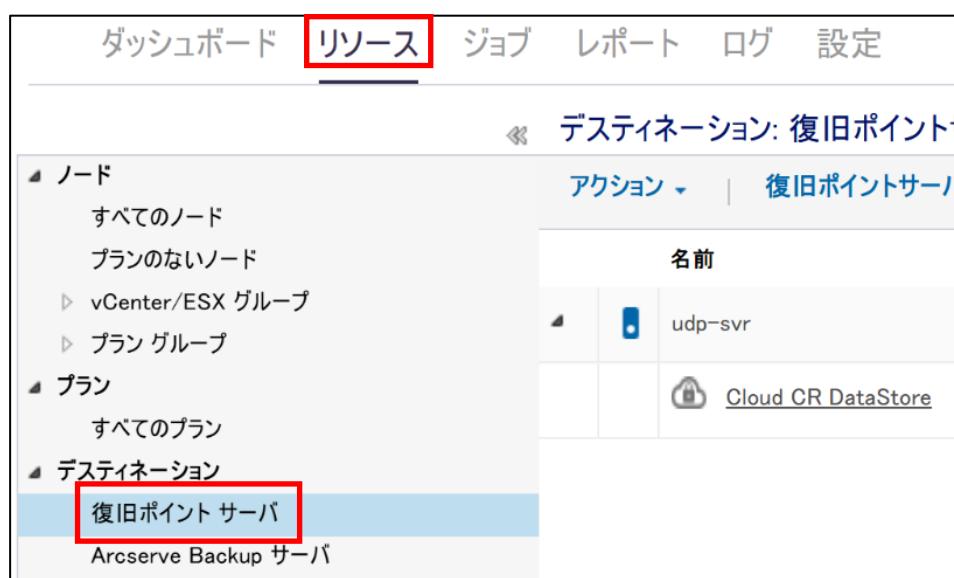
1. クラウド CRS のデータストアにて、イミュータブル スナップショットの一覧から、健全な時点のスナップショットを選択する
2. 「読み取り専用データストア」として RPS にインポートする
3. インポートしたデータストアから、任意の復旧ポイントを使用して本番サーバをリストアする

注意：

読み取り専用データストアとしてインポートするには、インポート元のデータストアが RPS に追加済みである必要があります。RPS が全損して再構築などが必要な場合は、[バックアップ時と異なる RPS へのデータストアインポート](#)をご覧ください。

4-2. イミュータブル スナップショットのインポート

1. [リソース] タブをクリックし、[復旧ポイントサーバ] を選択します。



The screenshot shows the Arcserve Cloud Recovery software interface. The top navigation bar has tabs: ダッシュボード, **リソース** (which is highlighted with a red box), ジョブ, レポート, ログ, and 設定. Below the tabs, there's a breadcrumb navigation: デスティネーション: 復旧ポイント+. The main content area has three sections: ノード (with sub-options: すべてのノード, プランのないノード, vCenter/ESX グループ, プラン グループ), プラン (with sub-options: すべてのプラン), and デスティネーション (with sub-options: **復旧ポイントサーバ** (which is highlighted with a red box), Arcserve Backup サーバ). To the right, there's a table with a single row: 名前 (Name) is 'udp-svr', and the 'デスティネーション' (Destination) is 'Cloud CR DataStore'. There's also a small icon of a padlock.

2. クラウド CRS のデータストアを管理している RPS を右クリックし、[イミュータブル スナップショットの表示] をクリックします。



作成済みのイミュータブル スナップショットが表示されます。

3. バックアップデータを破壊・改ざんされる前の健全な時点のスナップショットを選択し、[リストア用のイミュータブル スナップショットのインポート] をクリックします



インポートのための設定画面が表示されます。

リストア用のイミュータブル スナップショットのインポート

データストアのセットアップ (ステップ 1 / 2)

ソースデータストア	Cloud CR DataStore
イミュータブル スナップショット	スナップショット (2025-08-21 18-57-32)
復旧ポイントサーバ	udp-svr
クラウド アカウント	CloudAccount1
パケット名	cloud-cr-datastore
データストア名	Cloud CR DataStore2025-08-21 18-57-32
データストア フォルダ	<input type="text"/> 参照
インデックス デスティネーション	<input type="text"/> 参照
データストア モード	読み取り専用データストア - 以前のバックアップのデータを使用する ?
自動マウント解除	4週間
暗号化パスワード	<input type="text"/>

ヘルプ 次へ キャンセル

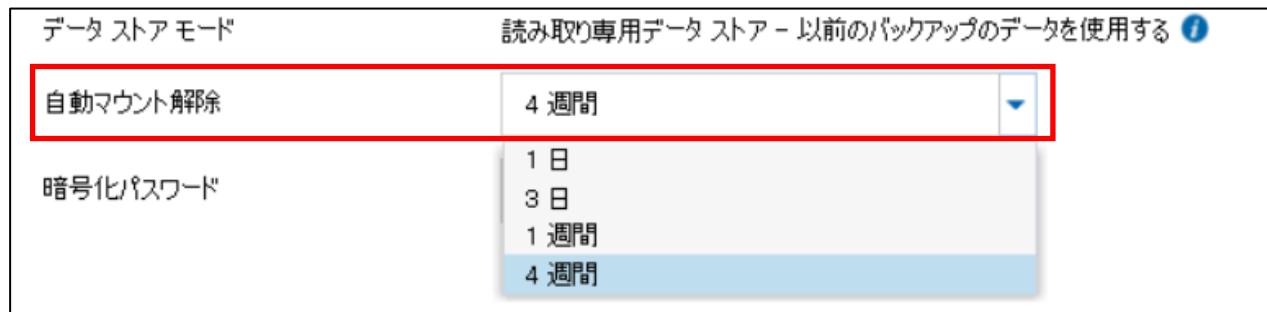
4. [データストア フォルダ] と、[インデックス デスティネーション] を指定します。

データストアのセットアップ (ステップ 2 / 3)

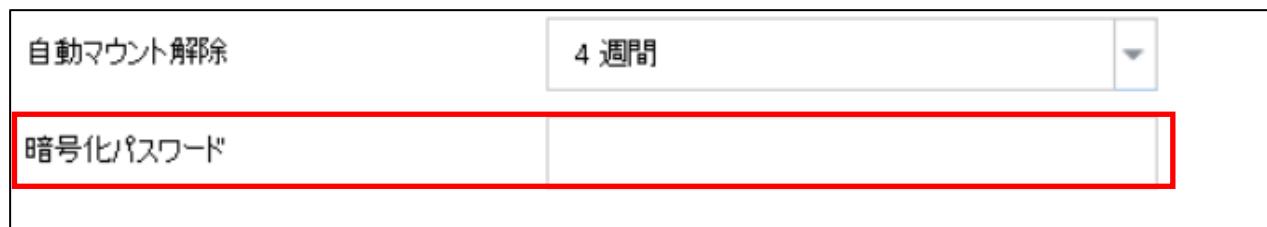
パケット名	cloud-cr-datastore
データストア名	Cloud CR DataStore2025-08-21 18-57-32
データストア フォルダ	D:\¥RO-Cloud CR DataStore\DS 参照
インデックス デスティネーション	D:\¥RO-Cloud CR DataStore\INDEX 参照
データストア モード	読み取り専用データストア - 以前のバックアップのデータを使用する ?

※ 読み取り専用データストアには、ハッシュ デスティネーションは不要です。

5. [自動マウント解除] では、読み取り専用データストアのマウントを自動解除するタイミングを設定します。デフォルトは 4 週間で解除されます。リストアに必要な時間を考慮して設定してください。



6. 暗号化を設定していた場合は、[暗号化パスワード] に設定時のパスワードを入力します。



7. 設定を確認し、[次へ] をクリックします。



8. メッセージを確認し、[完了] をクリックします。

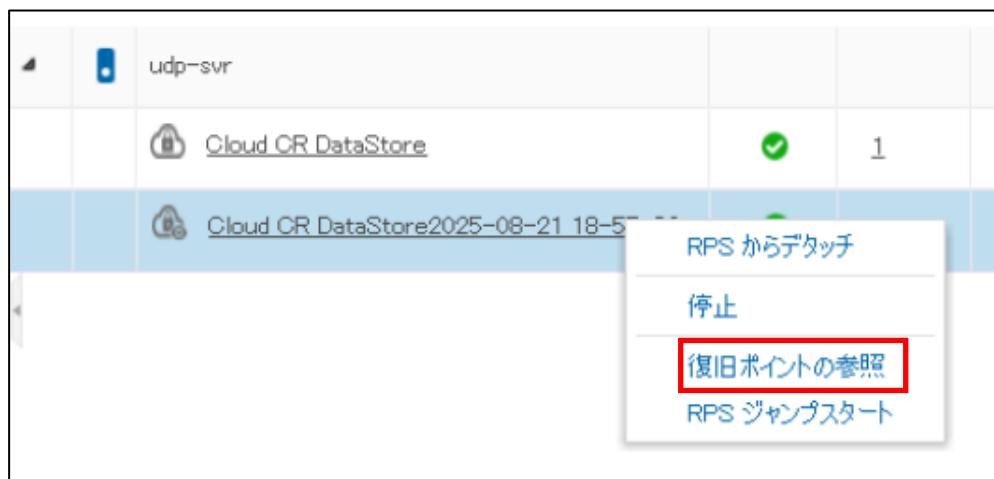


インポートが完了し、リストア用の読み取り専用データストアが追加されます。

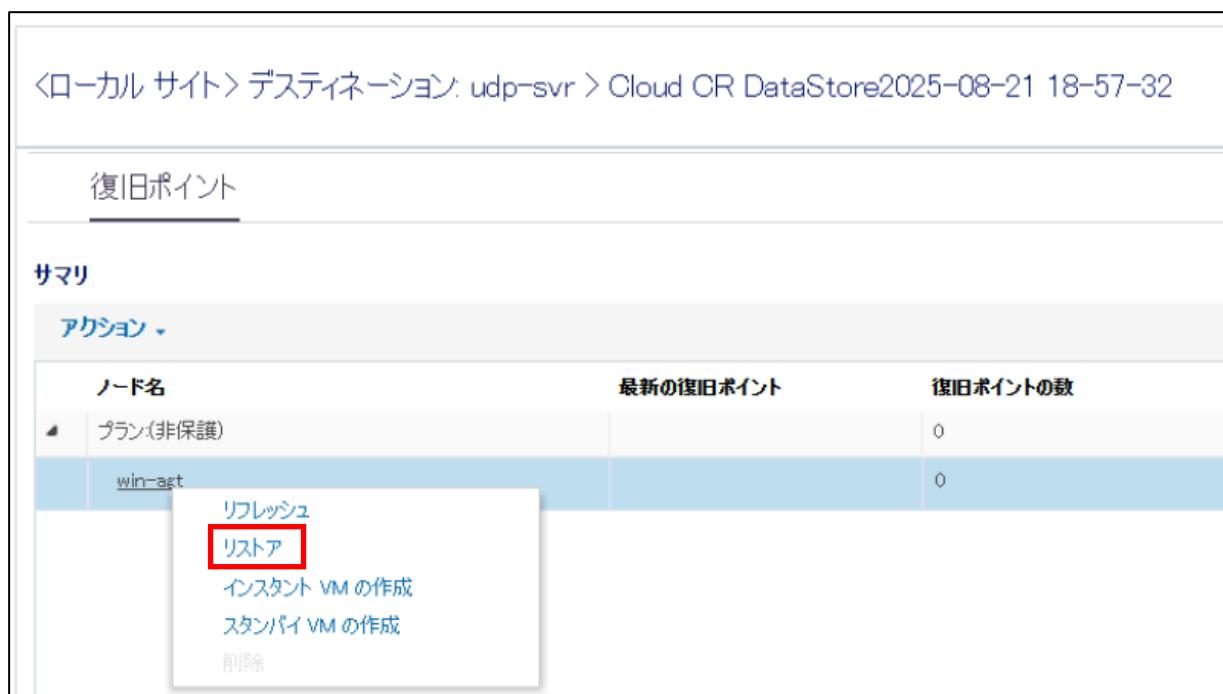


4-3. リストアの実行

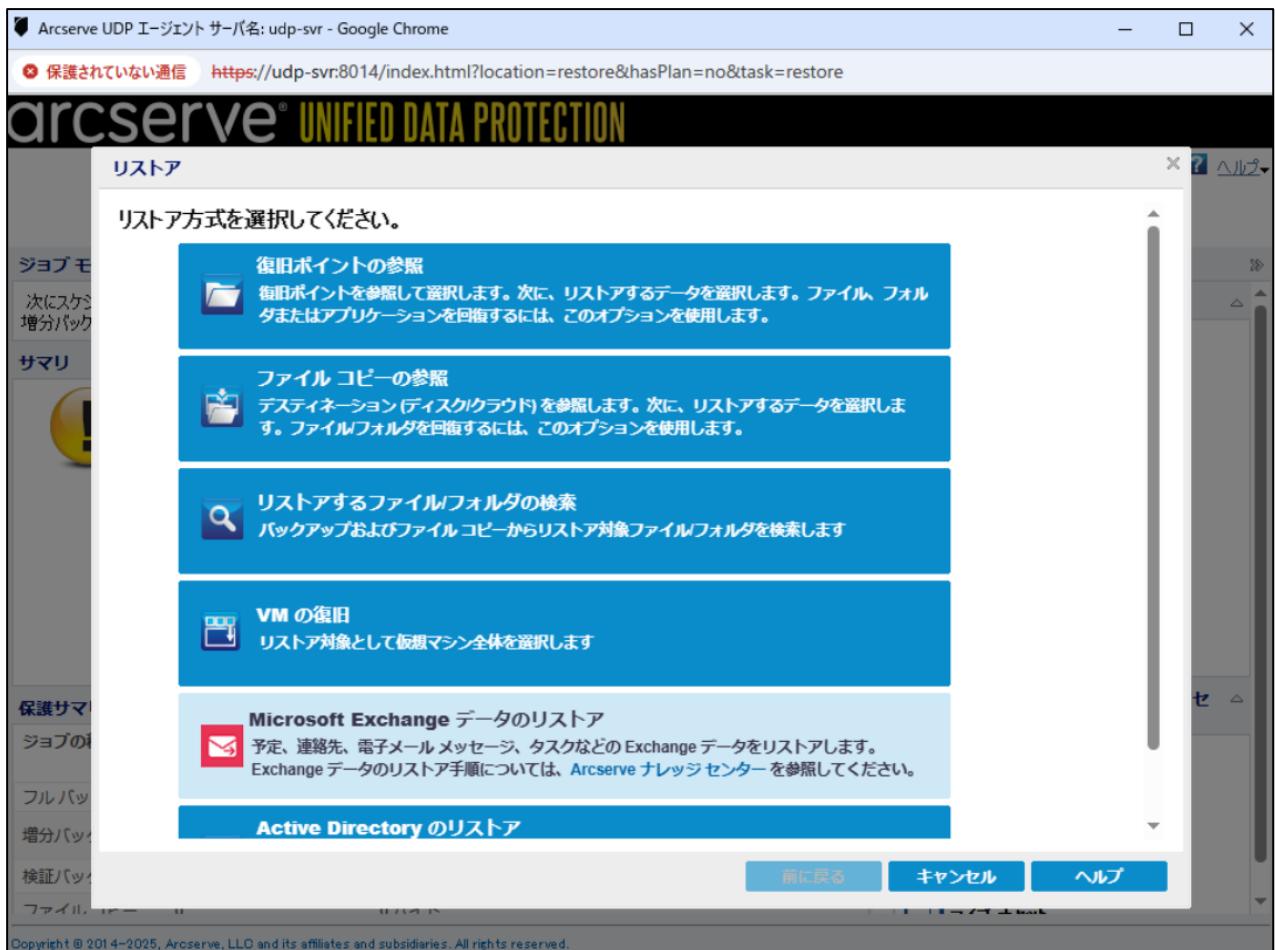
1. インポートしたデータストアを右クリックし、[復旧ポイントの参照] をクリックします。



2. リストアしたいノードを右クリックし、[リストア] を選択します。



3. 通常のデータストアと同様に、リストアを行うことができます。



詳細は「Arcserve UDP 10.x ソリューション ガイド」の保護データのリストアをご覧ください。

4-4. バックアップ時と異なる RPS へのデータストアインポート

サイバー攻撃などで UDP コンソールや RPS が全損してしまった場合、再構築するか、別な利用可能の UDP コンソール / RPS を使って復旧を行ってください。クラウド アカウントが UDP コンソールに登録されていない場合は、[再作成](#)も行ってください。

UDP コンソール、RPS、クラウド アカウントが利用可能になったら、クラウド CRS / ACS から RPS に元のデータストアをインポートします。クラウド CRS のデータストアがコンプライアンス モードで保護されていれば、スナップショット保持期間の間はクラウド内のバックアップデータは破壊されずにインポート可能な状態で保持されています。

クラウド CRS のデータストアでは、その後に必要に応じて、スナップショットを指定して読み取り専用データストアとしてインポートすることもできます。

以下は、クラウドから RPS にクラウド CRS のデータストアをインポートする手順です。

1. クラウド アカウントが作成されていない場合は[作成](#)します。アクセスキー／シークレット アクセスキーの情報が無い場合は、新しくキーを発行して作成してください（キー発行に使用する Arcserve Cloud Storage ポータルのアカウントはデータストア作成時と同じアカウントである必要があります）。
2. [リソース] - [復旧ポイント サーバ] をクリックします。
3. インポート先の RPS を右クリックし、[Arcserve クラウド サイバー レジリエンス データストアのインポート] をクリックします。



Arcserve クラウド サイバー レジリエンス データ ストアのインポート画面が開きます。

Arcserve クラウド サイバー レジリエンス データ ストアのインポート

復旧ポイントサーバ	BackupServer1
クラウド サービス	Arcserve Cloud Storage
クラウド アカウント	
地域	
パケット名	
暗号化パスワード	
注: データストアがパスワードなしで作成された場合は、[暗号化パスワード] フィールドは空白のままにしてください。	
データストア モード	<input checked="" type="radio"/> 書き込み可能なデータストア - バックアップ先として使用 ? <input type="radio"/> 読み取り専用のデータストア - 以前のバックアップからデータをリストアするために使用 ?
自動マウント解除	4 週間
次へ	
保存	キャンセル
ヘルプ	

4. [クラウド アカウント] を選択します。データストアを作成したときのアカウントを選択してください。

復旧ポイントサーバ	BackupServer1
クラウド サービス	Arcserve Cloud Storage
クラウド アカウント	Cloud Account1

5. [地域] で「AP 北東部 - 東京」を選択します。

クラウド アカウント	Cloud Account1
地域	AP 北東部 - 東京

6. バケットのリストから、インポートするデータストアのバケットを選択します。

クラウド アカウント	ccrsbucket20250605
地域	ccrsds1
	ccrstest20250812
バケット名	cloud-cr-datastore
	cloud-cr-datastore

7. 暗号化していた場合は、[暗号化パスワード] を入力します。

暗号化パスワード	
注: データストアが「パスワードなし」で作成された場合は、[暗号化パスワード] フィールドは空白のままにしてください。	

8. [次へ] をクリックします。

データストア モード	<input checked="" type="radio"/> 書き込み可能なデータストア - バックアップ先として使用 <small>?</small>
	<input type="radio"/> 読み取り専用のデータストア - 以前のバックアップからデータをリストアするために使用 <small>?</small>
自動マウント解除	4 週間
次へ	
保存 キャンセル ヘルプ	

画面がリフレッシュし、追加の設定項目が表示されます。

Arcserve クラウド サイバー レジリエンス データ ストアのインポート

データストア名	Cloud CR DataStore
復旧ポイントサーバ	BackupServer1
圧縮タイプ	標準
データのデュプリケーション	はい
デュプリケーションブロックサイズ	64kB
データストアフォルダ	<input type="text"/> <input type="button" value="参照"/>
インデックス デスティネーション	<input type="text"/> <input type="button" value="参照"/>
バックアップ デスティネーション	<input type="text"/> <input type="button" value="参照"/>
バックアップ デスティネーションは SSD (Solid State Drive) 上にある	<input type="checkbox"/>
バックアップモードの割り当て	19975 MB (最大: 49151 MB、最小: 1024 MB)
データの暗号化	いいえ
同時アクティブ ジョブ	4
属性セグメント	
<input checked="" type="radio"/> フレキシブル保持 (万が一モード) 特定の MB が複数保持ユーザーは、保存期間中に複数されているオブジェクト バージョンを上書きまたは削除できます。	
<input type="radio"/> コンプライアンス保持 (コンプライアンス モード) 保存期間中、複数されたオブジェクトバージョンをユーザーが上書きまたは削除することはできません。	
イミュータブル スナップショット スケジュールの頻度	
<input type="checkbox"/> 毎日	
<input type="checkbox"/> 毎週	
<input type="checkbox"/> 每月	
クラウド アカウント	Cloud Account1
アカウント名	cloud-cr-datastore
地域	AP 北東部 - 米国
エンドポイント	s3.ap-northeast-1.arcserve.com

9. [データストア フォルダ]、[インデックス デスティネーション]、[ハッシュ デスティネーション] に、RPS 内の空フォルダを指定します。

データストア名	Cloud CR DataStore
復旧ポイントサーバ	BackupServer1
圧縮タイプ	標準
データのデュプリケーション	はい
デュプリケーション ブロック サイズ	64KB
データストア フォルダ	F:\Cloud-CR-Datastore-Import\DS
インデックス デスティネーション	F:\Cloud-CR-Datastore-Import\INDEX
ハッシュ デスティネーション	F:\Cloud-CR-Datastore-Import\HASH

10. 必要に応じて、その他の設定可能な項目も設定します。手順としては、[データストアの追加](#) と同様です。

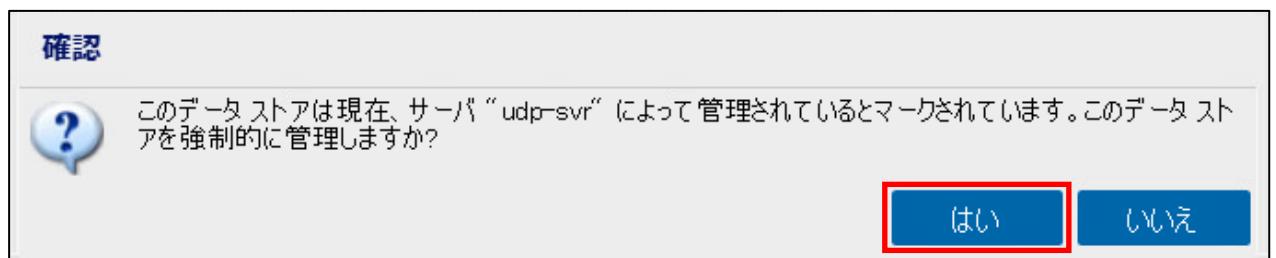
ハッシュ デスティネーションは SSD (Solid State Drive) 上にある	<input type="checkbox"/>
ハッシュ メモリの割り当て	19975 MB (最大: 49151 MB、最小: 1024 MB)
データの暗号化	いいえ
同時アクティブ ジョブ	4

保持ポリシー	
<input checked="" type="radio"/> フレキシブル保持 (ガバナンス モード) 特定の IAM 権限を持つユーザーは、保存期間中に保護されているオブジェクトバージョンを上書きまたは削除できます。	
<input type="radio"/> コンプライアンス保持 (コンプライアンス モード) 保持期間中、保護されたオブジェクトバージョンをユーザーが上書きまたは削除することはできません。	
イミュータブル スナップショット スケジュールの頻度	
<input type="checkbox"/> 毎日 <input type="checkbox"/> 毎週 <input type="checkbox"/> 每月	
クラウド アカウント	Cloud Account1
バケット名	cloud-cr-datastore
地域	AP 北東部 - 東京
エンドポイント	s3.ap-northeast-1.arcserve.com

11.[保存] をクリックします。



12.他のサーバで管理されている旨のメッセージが出た場合、確認の上で[はい] をクリックします。



インポートが行われます。

	BackupServer1			
100GBDS2		×	0	4
100GBDS-20250815		×	1	0
CCRS0819		✓	1	3
Cloud CR DataStore		✓	0	4

この後は、[イミュータブル スナップショットのインポート](#)の手順で、スナップショットから読み取り専用データストアを作成してください。

5 参考情報

- Arcserve CRS シリーズ 紹介資料

<https://www.arcserve.com/jp/crs-presentation.pdf>

- よくあるご質問と回答

<https://www.arcserve.com/jp/acs-ccrs-faq.pdf>

- オンライン ヘルプ (Arcserve UDP 10.x ソリューションガイド内)

https://documentation.arcserve.com/Arcserve-UDP/Available/10.0/JPN/Bookshelf_Files/HTML/SolG/default.htm#UDPSolnGuide/add_crs_data_store.htm

- Arcserve UDP 10.x 動作要件

<https://support.arcserve.com/s/article/Arcserve-UDP-10-X-Software-Compatibility-Matrix?language=ja>

- 注意/制限事項

<https://support.arcserve.com/s/article/2025090304?language=ja>

- 購入方法と価格表

<https://www.arcserve.com/jp/licensing-options/>

- Arcserve クラウド サービス規約

<https://www.arcserve.com/jp/cloud-services/>

- Arcserve Japan Direct (購入前のお問い合わせ)

<https://www.arcserve.com/jp/contact-us/>

- Arcserve サポート ポータル

<https://support.arcserve.com/s/?language=ja>